

令和2年度 第1回郡山市総合教育会議 議事録

【日時】 令和2年8月20日（木） 13時30分～14時30分

【会場】 郡山市役所 庁議室 教育委員会室（2つの会場をオンラインで繋ぐウェブ会議）

【次第】 1 開 会

2 市長あいさつ

3 議 題

新型コロナウイルス感染症対策に係るオンライン授業対応

4 報 告

（1）早寝早起き朝ごはん

（2）給食費等キャッシュレス対応

（3）高等学校普通科改革（3科再編）

5 その他

6 閉会

【出席者】 7名（敬称略）

郡山市長	品川 萬里
教育長	小野 義明
教育長職務代理者	阿部 亜巳
教育委員	今泉 玲子
教育委員	阿部 晃造
教育委員	藤田 浩志
教育委員	田中 里香

【事務局】 5名

政策開発部長	畠中 秀樹
教育総務部長	伊藤 栄治
学校教育部長	小山 健幸
政策開発部次長	安藤 博
教育総務部次長	橋本 仁信

1 開 会

2 市長あいさつ

○品川市長

今日のテレビ会議式総合教育会議は、学校でのオンライン授業やオンライン学習がどのようなものか疑似体験していただく場にもなればと思っている。総合教育会議や教育委員会の会議は、ゆくゆくは参集せずにそれぞれの自宅、仕事場でカメラを据えてウェブ会議できるよう準備していきたい。今は、これがニューノーマルになるといっても過言ではない状況にある。

3 議題 4 報告

※議論の流れ

議題及び報告3件について、担当課から現状や課題を説明後、市長と教育委員で議論（報告3については説明のみで議論なし）

- ・議題1「新型コロナウイルス感染症対策に係るオンライン授業対応」について教育研修センター所長から説明(資料1)
- ・報告1「早寝早起き朝ごはん」、報告2「給食費等キャッシュレス対応」について学校管理課長から説明(資料2、資料3)
- ・報告3「高等学校普通科改革」について政策開発課長から説明(資料4)

以下、市長と教育長、委員における議論

■議題1 新型コロナウイルス感染症対策に係るオンライン授業対応

○阿部教育長職務代理者

インターネット環境が家庭にあったとしても、実際に子どもがオンライン授業を受ける状態になったとき、全ての家庭において、親と一緒にいられる、隣でパソコン操作を手伝ってあげる、そういった環境にあるわけではない。また、自宅で過ごすのではなく学童保育に行く子ども、祖父母の家に行く子どももいる。学習する場所を限定せず、さらには子どもだけで操作できるそういったシステムになっていくと良いと思っている。

また、授業の進め方について、リアルタイムでみられなかった子どものために、見逃し配信のような録画して後から見直すことができる体制の構築が重要だと考えている。

○小野教育長

今、お話があったように、オンライン学習、オンライン授業の提供にあたり家庭環境を踏まえた上で、適切なオンライン環境の構築について教育研修センターと連携しながら研究していきたい。

○品川市長

全てが整った状態で非常時がくるとは限らない。平時のときに、緊急時のときにはオンライン授業しますよ、ということをバックキャストの観点からトレーニング付きでやっていくことが必要だと思っている。

オンラインや電子機器の操作については、子ども達の方が飲み込みが早く、プログラミング学習などで先生方よりも部分的に進んでいると感じており、ICTに係る齟齬については校長や教育長が全体を俯瞰してカバーしていくのが大事である。

以前感心したのは、体育の時間に子ども達が走り幅跳びの様子をタブレットで撮影して、子ども同士であの踏切が良かったとか悪かったとか相互学習があった。また、特別支援学級でもタブレットについて生き生きとした反応があった。

市長の立場は教育長からの注文に応え、できるだけ予算化していくということと考えている。教育長いかがか。

○小野教育長

お話があったように、市内の学校については、今年度タブレット一人一台の環境が整う。これは素晴らしい取組だと思っている。基本的には、各学校で先生及び子ども達が ICT 機器を日常的に使いこなしていく。それを通常の教育活動の中で積み重ねていくことで非常時における自宅での学習に繋がると考えている。

○品川市長

これは各委員にお願いだが、藤田委員は農業や農業青年会議所、今泉委員はコンピューターグラフィック、阿部委員は海外とのビジネス、田中委員は遠隔診療など医学の現場での ICT の活用など、実際にビジネスの実務の世界でどのようにオンライン、ネットが使われているのかというところを、皆様の御経験から児童生徒に紹介いただけると身近に感じられるのではないかと考えているがいかがか。

○藤田委員

東日本大震災等を経験し痛感したが、こういった大きい出来事が起きた際、表面化するのは以前から抱えてきた問題であると思っている。新型コロナウイルス感染症問題から、オンラインの話があったが、これは実は新しく発生した問題ではなく、今までずっとやらなければならないことが今回顕在化したものである。こういった緊急事態だけではなく、例えば不登校で学校に通えない子どものためにオンライン授業はどうかというところはこれまでも議論されてきた。これを契機に、新型コロナウイルス感染症感染防止としての対応だけでなく、今まで抱えてきた問題をもう一度整理した上で問題解決していくことが重要だと考えている。

新型コロナウイルス感染症が収束したら元通りに戻しましょうでは全く意味がない。タブレットを活用し、不登校の子どもへの授業やどの学校でも平等に部活動で一流の指導者の指導を受けられる環境を整えるなど、一歩進んだビジョンを示した上で、アフターコロナ、この試練を乗り越えて新しいより素晴らしい教育環境が郡山に整ったと言えるようになることが一つの解決策ではないかと思っている。

○今泉委員

いろいろな状況下において、空白の時間なく勉強ができる、一人一台のタブレットを買ってもらえることは幸せなことだと思う。私どもの学校でも、特任講師がパリ在住で、オンラインによりアトリエと学校を結んでやりとりをしているが、紙媒体とは異なり、生徒は直接日本人の感覚的なものを学べることから、いろいろな考え方ができるようになっている。オンラインを通してこれから、さらにいろいろなことができるようになると思う。郡山市がこのように積極的に ICT 教育に取り組んでいることは見通しが明るいと喜んでいる。

■ 報告 1 早寝早起き朝ごはん

○品川市長

田中委員は、様々な児童生徒の健康診断を診ていると思うが、最近の児童生徒と食生活の関係についていかがか。

○田中委員

学校の検診にひっかかった子を診る機会があり、小学生でも肥満は問題になっている。そういう子ども達の血液検査をすると、大人と同じような数値の悪化がみられることが多い。やはり小さい頃からの食生活が非常に大事であると実感している。

また、気になるデータを見せてもらったが、朝も夜も一人で食べる子が一定数おり、家庭環境はいろいろあると思うが、そこが少し問題なのかなと思う。

○阿部教育長職務代理者

朝ごはんの問題だが、食べない子どもは2つのパターンがあると考えられる。家庭で朝ごはんは出るが子どもが食べたくないという場合とそもそも様々な事情で家庭での朝ごはんそのものがないという場合であり、分けて考える必要がある。

前者のパターンは、朝ごはんの重要性を教えていくことである程度解消できると思う。また、後者のパターンは、子どもだけではどうしようもなく、すぐ食べられるバナナやロールパンなどを用意しておくよう親に対する働きかけが有効になってくるのではないかなと思う。野菜や汁物を作る、といった朝ごはんの中身のハードルを上げると難しいため、まずは何でもいいから口に入れるというところから始めるといいのではないかなと思う。

○藤田委員

朝食を作ることが、親の負担になっているという家庭も多いと思われる。最近は共働きで忙しく、さらにバランスの良い食事を手作りで用意しないといけないというプレッシャーも感じることもあるかなと思う。先ほどの話でもあったが、ハードルを上げない、朝食作り自体が苦痛にならないアプローチが必要である。食卓は楽しいコミュニケーションの場であって、こうあるべきということではなく、朝食をいかにしてとるかに主眼を置いて、具沢山の汁物や、冷凍食品を使う、あるいは新型コロナウイルス感染症の影響で苦境にある飲食店の力をお借りするといったように、家庭に負担のかからない形で、子供たちに楽しい食生活を送ってもらうためにはどうすればいいのか、といった視点で進めていくことが重要と考えている。

○品川市長

3食の摂取率を鑑みると、朝食、夕食の状況によっては給食の役割が大きくなる。そもそも朝食をきちんととっているかというところが大事な課題で、我々の関心事項にしていかなければならない。

■報告2 給食費等キャッシュレス対応

○品川市長

20種類程度の学校徴収金がある実態を、まずは委員の皆様にご認識いただきたい。現金を扱うことは気苦労が多く、最近はキャッシュレス化が大きな課題になっており、教育委員会として、各項目ごとに保護者負担、公費負担を議論いただきたいと考えている。キャッシュレス化について、経営者の立場から阿部委員いかがか。

○阿部委員

商売をしているが、細かい商売が多いため現金の取扱いが多い。お客様には、なるべく振込入金をしていただくよう案内しているが、学校と同様になかなかキャッシュレス化が進まない。できれば全て銀行で振込入金してもらえれば非常に助かるが、社会の現実として現金の流通が多い実態がある。手数料負担の問題等もあり、キャッシュレス化については、非常に苦労している。

○品川市長

保護者が払う教育負担金が日本は世界一多い。新型コロナウイルス感染症による社会不安の中で、学校徴収金の在り方について、金額にしても項目にしても見直していくべきではないか。教育の質・量が第一義にある一方、保護者の家計状況も当然考えていかなければならない。振込手数料の軽減については政府から金融機関に要請があるように、我々も金融機関に働きかけていきたい。教育委員会においても、そもそも学校徴収金の種類がこれだけあるということ、金額的にもそれなりにあるということを複数の視点で考えてもらえればと思っている。

5 その他

なし

6 閉 会